

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 服薬を自己管理している患者の服薬状況

[研究責任者] 9B病棟 看護師 緒方 志帆

[研究の背景]

A病棟は循環器内科、心臓血管外科、代謝内科の混合病棟であり、主疾患に加え複数の疾患をもち薬剤による加療を行っている患者が多い。継続的な治療が必要な患者が、正しく服薬管理ができないと、症状の増悪や合併症をきたす危険性がある。そのため、入院中から服薬の自己管理能力を高めることが健康管理において重要と考える。看護師は入院中から患者個々に合わせた服薬管理方法の指導を行っている。しかし、退院後、服薬コンプライアンスの不良により再入院をする患者がいる。また、「しんどくないから何日か飲んでいない日もあった。」「種類が多くどれを飲んだらいいかわからなかった。」という患者もいる。成田¹⁾は「退院後は社会生活の中での役割が優先され、さらに症状がないことも加わって、飲み忘れが生じる可能性が大きいと考えられる。」と述べており、服薬のコンプライアンス不良が起こる要因は様々だが服薬管理を継続していくことは難しいと考える。

そこで、内服薬を自己管理している患者の服薬に対する意識や、退院後どのような理由で服薬管理が困難になったのか明らかにしたいと考えた。

[研究の目的]

服薬を自己管理している患者への効果的な介入方法を明らかにするために、服薬の自己管理についての実態調査を行い、患者の服薬状況を把握する。

[研究の方法]

対象となる患者さん

- 1) A病棟に入院する内服薬を自己管理している患者(入院時の看護問診票を参照する)
- 2) 性別は問わない
- 3) 研究の趣旨を理解し本人の自由意思で文書による同意が得られた患者
- 4) インタビュー調査の実施について同意が得られ、インタビューによる聞き取りに回答できる患者

研究期間：2018年10月1日から2019年3月31日

利用する検体、カルテ情報

カルテ情報：性別、年齢、疾患、既往歴、薬の剤形・数、一包化の有無

検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター
9B 病棟 看護師 緒方 志帆

電話 086-294-9911 (代表)

FAX 086-294-9255 (代表)